

令和3年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.肺におけるガス交換と血液によるガスの運搬について説明できる。 2.腎臓の構造と役割を説明できる。 3.血漿pH調節の意義と緩衝系について説明できる。 4.消化管の各部位における消化メカニズムを説明できる。 5.ホルモン分泌の調節メカニズムを分類して説明できる。 6.エネルギー代謝を説明できる。			評価方法			
授業概要	正常な人間に起こる各組織の働きとして、まず生命現象の基本としての細胞機能と生体内の情報伝達機構を教授し、次いで、植物機能と動物機能を系統別に講義する。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 生理学第5版(医学書院)	使用器材	パソコン等				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	呼吸器系	1.呼吸器系の構造 2.メカニズム 3.外呼吸・内呼吸 4.呼吸の調節					
第2週	消化と吸収 ①	1.口腔の中での消化 2.嚥下 3.胃の中での消化 4.胃の運動					
第3週	消化と吸収 ②	1.小腸の中での消化 2.腸の中での吸収 3.腸の運動 4.消化のまとめ					
第4週	腎臓と排泄	1.腎臓の構造 2.尿の生成 3.排尿					
第5週	内分泌系 ①	1.内分泌腺 2.下垂体ホルモン 3.甲状腺・上皮小体とホルモン					
第6週	内分泌系 ②	1.副腎とホルモン 2.膵臓とホルモン 3.性腺とホルモン					
第7週	生殖器系	1.性分化 2.男性生殖器 3.女性生殖器 4.受精と妊娠					
第8週	代謝と栄養 ①	1.栄養素					
第9週	代謝と栄養 ②	1.代謝 2.糖質代謝 3.脂質代謝 4.蛋白質代謝					
第10週	代謝と栄養 ③	1.エネルギー代謝と基礎代謝 2.体温調節					
第11週	生理学国家試験対策 ①	1.生理学総論 2.筋系 3.末梢神経系					
第12週	生理学国家試験対策 ②	1.中枢神経系 2.感覚器系 3.循環器系					
第13週	生理学国家試験対策 ③	1.呼吸器系 2.消化と吸収 3.腎臓と排泄					
第14週	生理学国家試験対策 ④	1.内分泌系 2.生殖器系 3.代謝と栄養					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	運動学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経歴	病院で神経内科療法勤務4年	担当	植田 友貴	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 体幹・顔面の筋をそれぞれの運動と共に学び、臨床医学に結び付けて行く。 2. 姿勢の力学を学ぶことにより日常生活動作での転倒予防の基礎知識を身につける。 3. 歩行の基礎知識及び歩行分析による筋活動等の知識を修得する。 4. 姿勢制御理論、運動制御理論および運動学習理論が理解できる。 5. 生体力学を学び関節及び筋の作用との関連が理解できる。			評価方法			
授業概要	基礎的知識としての解剖学・生理学をベースに、人間の運動を理解統合する為に、運動処方・姿勢・歩行と歩行及び動作分析を実習を通して理解し、臨床に結びつく実践の知識として学ぶ。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTOTテキスト運動学	使用器材	パソコン等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	腰椎の運動	◎ポイント:腰椎					
第2週	顔面及び頭部の運動	◎ポイント:顔面の筋					
第3週	姿勢	◎ポイント:重心 ◎ポイント:姿勢の異常					
第4週	歩行と歩行 その1	◎ポイント:運動学的分析					
第5週	歩行と歩行 その2	◎ポイント:運動学的分析実習					
第6週	小児及び高齢者の歩行	◎ポイント:小児の歩行 ◎ポイント:高齢者の歩行					
第7週	階段と踏み台の昇降	◎ポイント:運動学的分析実習					
第8週	運動と動作分析	◎ポイント:モーションキャプチャー					
第9週	体力と運動処方 その1	◎ポイント:運動処方					
第10週	体力と運動処方 その2	◎ポイント:運動処方実習					
第11週	生体力学の基礎 その1	◎ポイント:身体とてこ					
第12週	生体力学の基礎 その2	◎ポイント:モーメント					
第13週	生体力学の基礎 その3	◎ポイント:運動法則					
第14週	生体力学の基礎 その4	◎ポイント:仕事とエネルギー					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	整形外科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院等の整形外科勤務12年	担当	宮原 洋八	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 作業療法士が関わる整形外科疾患と障害を説明できる。 2. 整形外科疾患の症状を説明することができる。 3. 各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。 4. 整形外科的疾患の診断方法の実際を説明できる。			評価方法			
授業概要	整形外科疾患に対する診断・検査・治療の理論と手技を理解する。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準整形外科学	使用器材	PC				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	骨						
第2週	関節						
第3週	骨・軟骨の損傷修復						
第4週	痛みの生理学						
第5週	診療						
第6週	検査						
第7週	保存療法・手術療法						
第8週	関節リウマチ						
第9週	慢性関節疾患						
第10週	四肢循環障害						
第11週	代謝性骨疾患						
第12週	骨腫瘍						
第13週	軟部腫瘍						
第14週	神経・筋疾患						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 筋の種類とその作用を説明できる。 2. 筋の起始 と停止、作用を説明することができる。			評価方法			
授業概要	解剖学は、人体の正常な形態と構造を理解する分野である。解剖学が正常体の形状を研究するのに対して、その機能を扱うのが生理学であるが、解剖学と生理学の境界はないとも言われている。医学の基礎知識として重要な分野となる。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	1 人体解剖学 2 筋学ハンドブック	使用器材	骨標本、PC等映写				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	筋学総論 1 P.109～						
第2週	筋学総論 2 (関節運動含む) P.111～						
第3週	頭部の筋(顔面筋、咀嚼筋、頭部筋膜) 1 P.116～						
第4週	頭部の筋(顔面筋、咀嚼筋、頭部筋膜) 2 P.116～						
第5週	頸部の筋(側頸筋、前頸筋、後頸筋、他) 1 P.123～						
第6週	頸部の筋(側頸筋、前頸筋、後頸筋、他) 2 P.123～						
第7週	背部の筋、胸部の筋、腹部の筋 1 P.128～						
第8週	背部の筋、胸部の筋、腹部の筋 2 P.128～						
第9週	上肢帯の筋、上肢への筋 1 P.139～						
第10週	上肢帯の筋、上肢への筋 2 P.139～						
第11週	上腕の筋、前腕の筋 1 P.147～						
第12週	上腕の筋、前腕の筋 2 P.147～						
第13週	大腿の筋、下腿の筋 1 P.152～						
第14週	大腿の筋、下腿の筋 2 P.152～						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	多職種連携の理解	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	林 あゆみ	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 職種連携の定義を述べることができる。 2. 多職種連携に参加する職種を挙げ、その役割を述べるができる。 3. 事例検討において多職種連携の視点で、専門職の側面から分析し考察できる。 4. 連携して働く多職種との協力に必要な知識、技術、態度を身につける。			評価方法			
授業概要	多職種連携の観点から、専門職業人として普遍的な知識および考え方・態度について理解し修得するとともに、関係職種との連携および協働により地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献できるような態度を身につける。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ケアマネジメントにおける多職種連携実践事例集	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	第1部 多職種連携のための基礎知識 1. 介護支援専門員と地域包括ケアシステム						
第2週	第1部 多職種連携のための基礎知識 2. 介護支援専門員に求められるチームマネジメント						
第3週	第2部 多職種連携のための関連職種・サービスの知識 1 介護職との連携 2 リハビリテーション専門職との連携						
第4週	3 医療職との連携 4 看護職との連携						
第5週	5 薬剤とアセスメントのポイント 6 インフォーマルサービスなどの活用						
第6週	7 栄養アセスメントのポイント 8 口腔ケアアセスメントのポイント						
第7週	第3部 多職種連携によるケアマネジメント実践事例 1 脳血管疾患に関する事例						
第8週	2 認知症に関する事例 3 筋骨格系疾患と廃用症候群に関する事例						
第9週	4 内臓の機能不全に関する事例 5 看取りに関する事例						
第10週	6 リハビリテーションおよび福祉用具に関する事例						
第11週	7 入退院時等における医療との連携に関する事例						
第12週	8 家族への支援の視点が必要な事例						
第13週	9 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例						
第14週	10 状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅳ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①呼吸器、循環器、消化器、泌尿器の構造と機能について理解できる。 ②各器官における生理学的な反応を理解できる。 ③運動における呼吸循環系の役割を理解できる。			評価方法			
授業概要	医学系専門職として作業療法を学ぶ上で基礎となる、生命の維持に非常に重要な働きをもつ呼吸器と循環器や、消化器、泌尿器の構造と機能についての知識とその役割を学び、生体内で起こる生理学的反応への考察力を高めることを目的とする。さらに運動における呼吸循環系の役割に対する理解を深めることも目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	人体解剖学	使用器材	PC等、臓器模型				
週	授業項目・内容			実施結果			
第1週	脈管系総論 P.303～P.319	血管系とリンパ管系について学びます。					
第2週	循環(1) P.319～P.361	心臓の構造、肺循環、体循環について学びます。					
第3週	循環(2) P.319～P.361	体循環の血管系について学びます。					
第4週	呼吸(1) P.231～P.252	肺、気管、気管枝について学びます。					
第5週	呼吸(2) P.231～P.252	肺活量、発声器官について学びます。					
第6週	消化器(1) P.180～P.207	口腔、歯、口蓋、舌、唾液腺、扁桃、咽頭、食道について学びます。					
第7週	消化器(2) P.207～P.211	胃について学びます。					
第8週	消化器(3) P.211～P.217	小腸について学びます。					
第9週	消化器(4) P.217～P.221	大腸について学びます。					
第10週	消化器(5) P.222～P.228	肝臓について学びます。					
第11週	消化器(6) P.228～P.231	膵臓について学びます。					
第12週	泌尿器(1) P.254～P.262	腎臓について学びます。					
第13週	泌尿器(2) P.254～P.262	泌尿器官について学びます。					
第14週	リンパ系(1) P.363～P.367	リンパ管系について学びます。					
第15週	リンパ系(2) P.363～P.367	脾臓、胸腺について学びます。					
授業外学習指示等	臨床における基礎知識であり、国家試験でも多く出題されます。授業後の復習が重要です。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	作業療法評価学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①作業療法評価における検査測定の意義を述べることができる。 ②作業療法に必要な検査の知識、技術を習得する。			評価方法			
授業概要	作業療法士に必要な評価能力を身につけるため、検査意義や一連の流れを踏まえ身体機能における基本的な知識と検査技術について解説および実技指導する。			期末試験 80% レポート 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学	使用器材	教科書、各種検査器具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	形態測定①(講義、実技)(教科書 P65～P71)						
第2週	形態測定②(講義、実技)(教科書 P65～P71)						
第3週	感覚検査①(講義、実技)(教科書 P114～P129)						
第4週	感覚検査②(講義、実技)(教科書 P114～P129)						
第5週	反射検査①(講義、実技)(教科書 P130～P137)						
第6週	反射検査②(講義、実技)(教科書 P130～P137)						
第7週	筋緊張検査(講義、実技)(教科書 P151～P159)						
第8週	姿勢反射・バランス検査①(講義、実技)(教科書 P138～P150)						
第9週	姿勢反射・バランス検査②(講義、実技)(教科書 P138～P150)						
第10週	協調性検査(講義、実技)(教科書 P160～P167)						
第11週	脳神経検査(講義、実技)(教科書 P168～P183)						
第12週	摂食・嚥下機能検査(講義、実技)(教科書 P184～P193)						
第13週	上肢機能検査(講義、実技)(教科書 P204～P212)						
第14週	疼痛検査(講義、実技)(配布資料)						
第15週	QOL、興味、役割の評価(講義、実技)(教科書 P241～P255)						
授業外 学習指示等	作業療法において、治療・指導・援助の根拠となる検査・測定である。知識と理解、技術習得に必要な取り組む姿勢が求められる。事前の学習、習得したことは、普段でも繰り返し練習をしておくこと。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	臨床心理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山下 真智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1:臨床心理学の構造 2:防衛機制、臨床心理支援の理解 3:心理アセスメント・心理検査の理解 4:各種代表的心理療法についての理解 5:その他			評価方法			
授業概要	心理学とは何かを基礎的、理論的に学びながら作業療法士に必要な心理学の要点を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	臨床心理学とは 臨床心理学の歴史						
第2週	職域と社会的連携 公認心理師						
第3週	防衛機制						
第4週	臨床心理支援のキー概念						
第5週	心理アセスメント 心理検査						
第6週	介入方法① 行動療法						
第7週	認知行動療法						
第8週	催眠療法・精神分析療法						
第9週	内観療法・芸術療法						
第10週	箱庭療法・遊戯療法						
第11週	自律訓練・ゲシュタルト療法						
第12週	心理劇・交流分析						
第13週	来談者中心療法						
第14週	集団精神療法						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	心理療法については担当を決めグループ発表を予定しています。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1:リハビリテーション医学の変遷、歴史、現状についての理解 2:臨床医学お発展と障害学についての理解 3:リハビリテーション臨床の主な疾患について治療からリハビリテーションまでの流れの理解			評価方法			
授業概要	リハビリテーション医学に携わるプロとして、その変遷、概要、各種障害、疾患のリハビリテーションの流れ等を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準 リハビリテーション医学	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	リハビリテーション医学とは (理念の変遷)			P3			
第2週	障害学			P75・252			
第3週	脳血管障害 ①			P304・資料			
第4週	脳血管障害 ②						
第5週	脊髄損傷 ①			P304			
第6週	脊髄損傷 ②						
第7週	脊髄小脳変性症			P371			
第8週	パーキンソン病			P366			
第9週	脳性麻痺			P356			
第10週	筋ジストロフィー			P389			
第11週	末梢神経損傷・多発性筋炎			P399			
第12週	多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症			P375			
第13週	関節リウマチ・変形性関節症			P441			
第14週	二分脊椎その他			P351			
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	各自疾患ごとに復習をしてください。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	病理学/内科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山下 眞智子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.:病理学総論において各項目ごとの用語と内容の理解 2:各内科疾患の経過と治療の理解 3.病理内科における国試問題への取り組み			評価方法			
授業概要	国家試験出題基準内容及び臨床場面で必要な知識を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 病理学及び内科学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	病理学総論 : 病因論、退行性病変			P8			
第2週	病理学総論 : 進行性病変			P15			
第3週	病理学総論 : 循環障害			P37			
第4週	病理学総論 : 免疫・炎症・感染症			P50			
第5週	病理学総論 : 腫瘍			P73			
第6週	病理学総論 : 先天性異常・奇形			P101			
第7週	病理学各論 :まとめ						
第8週	循環器疾患 I 循環器疾患			P55			
第9週	呼吸器疾患 I 呼吸機能と閉塞性換気障害他			P102			
第10週	消化器疾患 I 消化器解剖と上部消化管疾患			P142			
第11週	肝・胆・膵疾患 肝疾患と肝機能/代謝性疾患			P174			
第12週	内分泌疾患			P229			
第13週	腎・泌尿器疾患			P271			
第14週	感染症疾患 遺伝性疾患			P321			
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国試問題を項目ごとに提示しますので各自で解いてみる。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	精神医学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 精神科の疾患について理解することができる。 2 精神科作業療法で関わることが多い統合失調症について知識を深める。 3 作業療法における精神疾患との関わり方を理解することができる。			評価方法			
授業概要	精神医学とは何か。精神障害者を理解するために、精神疾患と精神症状を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	現代臨床精神医学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	精神医学概論と基礎知識(精神科の病)について。オリエンテーション						
第2週	精神医療とは何か 精神医学の概念について学ぶ(歴史的背景を踏まえて)						
第3週	症状の成り立ち(外因・内因・心因について学習する)。また心身相関について学習する。						
第4週	睡眠と覚醒のリズムについて学習する人体における睡眠の必要性						
第5週	精神療法について(筋肉応答法含む)精神科臨床場面において果たす役割について学ぶ。						
第6週	精神科における薬物療法の作用と副作用について学ぶ。(発展した歴史的背景含む)						
第7週	統合失調症について概念、歴史、疫学、成因について学ぶ。						
第8週	統合失調症の経過について症状の推移について学ぶ。(予後も含む)						
第9週	統合失調症の治療について。基本方針、治療の概略について学ぶ。						
第10週	統合失調症におけるリハビリテーションの概要について学ぶ。						
第11週	統合失調症まとめ。アウトプットを繰り返し、知識の定着を図る。						
第12週	外因性精神病について(認知症の概要、中核症状、周辺症状とは)学ぶ。						
第13週	自らの精神保健(治療者自身のメンタルヘルスの重要性)						
第14週	期末試験対策を実施する。						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義に参加する前は、事前に配布したスライドに目を通すこと。また、復習は適宜行い、知識の習得を目指すこと。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	集団作業療法治療学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経歴	精神科・老年期病院勤務歴14年	担当	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法場面における集団の活用と効果について理解できる。 2 集団を活用することによるグループダイナミクスについて理解できる。 3 集団を治療に活用する醍醐味を理解できる。			評価方法			
授業概要	作業療法における治療方法の一つであるグループダイナミクス(集団力動)の応用について、集団を治療に活用する基礎的な知識を理解し学習する。集団体験としてのグループ活動や演習など様々な活動の体験を臨床に活用できる実践力を養う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ひとと集団・場 第2版 三輪書店	使用器材	配布資料その他演習に必要な用品				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	イントロダクション: 作業療法の方法としてのグループダイナミクス(集団)の活用						
第2週	1、集団・場: ひとの集まりとしての集団(集団意味、構造)について理解する。						
第3週	2、ひとと集団: 社会の中での集団の意味・目的について理解を深める。						
第4週	3、生活技能と集団: 生活技能、対人発達技能の発達における集団の役割について学ぶ。						
第5週	4、集団の利用: 集団と療法～効果(治療のける集団の活用と効果)について理解する						
第6週	4、集団の利用: 構造を理解し、専門職として必要に応じ、集団を活用することを学ぶ。						
第7週	5、パラレルな場とその活用(パラレルな場を治療に活かす意味)について学ぶ。						
第8週	6、作業療法と集団・場(対象者に合わせた意図的な場の活用)について学ぶ。						
第9週	7、集団プログラムの計画と評価について理解を深める。						
第10週	8、作業療法における集団プログラムの実際 I						
第11週	作業療法における集団プログラムの実際 II						
第12週	グループワーク I (フィードバックを行い、改善是正を目指す。)						
第13週	グループワーク II (他者のプレゼンに対して、建設的な討論が出来ることを目指す)						
第14週	総括(講義の振り返り要点のまとめ、期末試験対策)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義の中ではプレゼンも実施します。能動的かつ積極的に参加をすることを期待します。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	一般臨床医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	PT・OTとして必要な医学一般に関する知識を修得する。			評価方法			
授業概要	厚生労働省の示しているPT・OTの卒前教育として指示されている「一般臨床医学」の基礎的知識を理解する。具体的には、心肺蘇生をはじめとする救急医療、外科及び脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科における代表的疾患の病態と標準的な治療法を学習する。また、老年医学についても学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための一般臨床医学	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	救命救急医療(教科書第1章 P1~P2)						
第2週	救命救急医療2(教科書第1章 P2~P11)						
第3週	外科総論1(教科書第2章 P13~P17)						
第4週	外科総論2(教科書第2章 P17~P21)						
第5週	脳神経外科概論1(教科書第3章 P23~P29)						
第6週	脳神経外科概論2(教科書第3章 P29~P30)						
第7週	脳神経外科概論3(教科書第3章 P30~P33)						
第8週	皮膚疾患1(教科書第4章 P35~P46)						
第9週	皮膚疾患2(教科書第4章 P46~P56)						
第10週	泌尿器・生殖器疾患1(教科書第5章 P57~P63)						
第11週	泌尿器・生殖器疾患2(教科書第5章 P63~P73)						
第12週	婦人科・産科・眼疾患(教科書第6、7章 P75~P104)						
第13週	耳鼻咽喉科疾患(教科書第8章 P105~P117)						
第14週	老年医学(教科書第9章 P119~P121)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義の最後に確認問題を実施する。確認問題は必ず復習を行うこと。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	リハビリテーション栄養学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 作業療法士に必要な生物学、化学、栄養学の基礎知識を修得する。 2 実践的なリハビリテーション栄養学の基礎知識を修得する。 3 作業療法士に必要な栄養アセスメントの知識を修得する。			評価方法			
授業概要	生物学と化学をベースとして、栄養学の基礎知識を理解する。そして、実践的なリハビリテーション栄養学の知識を習得する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハベーシック 生化学・栄養学	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	なぜ生化学・栄養学を学ぶのか (教科書 第1章 P8~P14)						
第2週	生化学・栄養学に必要な基礎化学 (教科書 第2章 P16~P22)						
第3週	蛋白質とアミノ酸 (教科書 第3章 P24~P30)						
第4週	酵素・ホルモン (教科書 第4章 P32~P38)						
第5週	糖質・脂質の代謝 (教科書 第5章 P40~P46)						
第6週	ビタミン (教科書 第6章 P48~P54)						
第7週	消化と吸収 (教科書 第7章 P56~P62)						
第8週	エネルギー代謝 (教科書 第8章 P64~P70)						
第9週	運動と栄養 (教科書 第9章 P72~P78)						
第10週	リハビリテーションと栄養 (教科書 第10章 P80~P86)						
第11週	栄養評価 (教科書 第11章 P88~P94)						
第12週	主な病態の栄養管理 (教科書 第12章 P96~P102)						
第13週	静脈・経腸栄養法 (教科書 第13章 P104~P110)						
第14週	栄養と摂食嚥下 (教科書 第14章 P112~P118)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義の最後に確認問題を実施する。適宜復習を行うこと。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	基礎作業学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院での勤務経験20年	担当	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 作業療法の「手段」「目的」である「作業」について活用の仕方を理解できる 2. 「作業」を体験し身体・精神機能、社会参加について分析する力をつける 3. 作業療法士は、対象者を1人の人として捉え援助する。臨床の知(クリニカルリーズニング)について理解し活用できる			評価方法			
授業概要	作業療法士にとって「作業」について学ぶことは、職業生命の基礎である。「作業」に焦点を当て、対象者の「健康」や「主体的な生活の獲得」のための作業の適応の仕方と治療実践について、基礎知識を学び演習等を通して臨床へ活用できる技術を修得する。			期末試験 80% レポート・学習態度など 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ひとと作業・作業活動 三輪書店	使用器材	視聴覚機器・配布資料その他演習に必要な用品				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	イントロダクション:生活の回復、再建がなされる「作業」について学ぶ 配布資料:当事者からみた作業療法の魅力						
第2週	1 作業とは: 定義と分類 生活の中で目的や意味を持って行われる作業について生活行為マネジメントの自己活用						
第3週	1 作業とは: 定義と分類 生活の中で目的や意味を持って行われる作業について生活行為マネジメント用いて演習						
第4週	1 作業とは: 定義と分類 生活の中で目的や意味を持って行われる作業について作業療法での生活行為マネジメントの用いられ方						
第5週	2 ひとと作業: 「作業」を生活、脳、身体、こころ、コミュニケーションなど切り口から、人にとっての作業とは、目的と意味を持って行われる作業をみる視点を学ぶ						
第6週	3 作業の知: 作業そのものの特性や意味、ひとが作業をすること、効用についてケース「作業療法とあきらめかけていた趣味の再開」ワークシートを通して学ぶ						
第7週	3 作業の知: 「作業療法とあきらめかけていた趣味の再開」ワークシート発表「作業のアフォードするもの」について学ぶ						
第8週	6 作業の技: 治療や手段としての作業の利用、作業の選択、「ことばと作業」の活かし方、対象者と治療効果を高める作業療法士との関わり方について学ぶ						
第9週	7 技を育む: 作業が活きる条件—作業療法士自身の治療的活用 クリニカルリーズニングとは何か学ぶ、治療場面で演習						
第10週	5 作業を分析する: 「作業演習 ①」 身体的・認知機能や心理的、社会的関係など分析する						
第11週	5 作業を分析する: 「作業演習②」 身体的・認知機能や心理的、社会的関係など分析する						
第12週	8 作業分析: 動作分析(ADLをはじめ生活動作を分析する手法) 利き手交換(書字)、片麻痺での更衣動作演習						
第13週	8 作業分析: 動作分析(ADLをはじめ生活動作を分析する手法) 動作分析: DVD脳卒中(重度片麻痺、感覚障害、半側空間無視、注意障害)						
第14週	全体総括: 作業療法の視点として「人・環境・作業」モデルを学ぶ 試験対策						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	作業療法士は対象者の個別性にあわせて、様々な問題と一緒に取り組んで解決していくことが求められます。座学はもちろんのこと、課題に主体的に取り組み、行動する習慣を身につけましょう						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	公衆衛生	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 多様な公衆衛生活動があり「健康」が守られていることを理解する 2. 環境問題や各分野に特有な課題に対応する具体的活動について知識を深める 3. 身近にある健康問題に対して関心を持ち、積極的に情報収集し行動することができる			評価方法	期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)		
授業概要	環境や行動を社会的に整えて人の健康を守る保健医療活動である公衆衛生の基本的な知識を学習する。今後、社会の変化に伴い変化する公衆衛生活動を作業療法士として活用できる視点と能力を培う。						
教科書等	わかりやすい公衆衛生第3版 ヌーベルヒロワ	使用器材	配布資料その他演習に必要な用品				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	1. 公衆衛生とは:健康には多くの要因が関係しており「みんなの健康を、みんなで守る、保健医療の組織的な営み」公衆衛生とは何かについて学ぶ						
第2週	2. 健康と環境、疫学的方法:人の健康に影響する要因と、集団検診と集団の健康事象について扱う疫学の重要性について学ぶ						
第3週	3. 健康の指標:集団の健康水準を測定する尺度の総称であり、良く使用されているものについて指標の意味するもの、見方などについて学ぶ。						
第4週	4. 感染症とその予防:感染症の成立要因と伝播様式を理解し、その発生予防や蔓延防止の方策について学ぶ。代表的な感染症について流行状況や感染予防対策を学ぶ						
第5週	5. 食品衛生と栄養:食生活の安全を確保するため、食中毒予防の新しい技術や知識ならびに我が国の食品衛生の制度を理解する						
第6週	6. 生活環境の保全:現代の生活が地球環境に何をもたらしたかを理解する。地球温暖化に代表される環境の変化が人々の健康に与える影響について学ぶ						
第7週	7. 医療・介護の保障制度:日本で病院を受診したり、介護サービスを安心して受けることができる仕組みについて学ぶ						
第8週	8. 地域保健活動(ヘルスサービスの構造):地域の住民が適切なヘルスサービスを受けることができる仕組みやシステムについて学ぶ						
第9週	9. 母子保健:少子化が急速に進行する中で、我が国の現状と今後の課題について、母親への支援、子どもの健全な発達を保障できるか、今後の母子保健サービスの方向について学ぶ						
第10週	10. 学校保健:学校保健では児童・学生の成長を支援していく責任がある。学校保健制度の法的基盤をもとに、学校保健・安全の制度の構成と内容について学ぶ						
第11週	11. 生活習慣病:がん、心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病が日本人の最大の死因となっており、国をあげて取り組んでいる健康づくりについて学ぶ						
第12週	12. 難病対策:難病の定義と「共生社会の実現」という難病対策の基本理念を理解する 13. 健康教育とヘルスプロモーション(自らの健康をコントロールし改善するプロセス)の概念や取組みについて学ぶ						
第13週	14. 精神保健福祉:精神障害者の人権尊重が重視され「入院医療から地域生活中心へ」改革が進む施策について学ぶ。自殺や依存症など新たな課題についても学ぶ						
第14週	15. 産業保健:産業保健の目的と働く人を保護する枠組みを理解し、労働衛生管理の仕組みである3管理と労働衛生教育の概略を学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	「健康は自分自身の財産であるとともに、社会資源である」ということがヘルスプロモーション(健康増進活動)の思想です。誰もが健康に暮らしたいと考えています。自分の健康に置き換えることで公衆衛生活動の重要性を理解することができるでしょう。具体的な事例や実際の事件・事故を通じて理解が深まるように学習していきます						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	基礎作業療法学	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院で陶芸、織物、手工芸等を指導	担当	林 あゆみ	授業方法	演習	単位数	4
到達目標	① 作業の一般的特性を理解する。 ② 作業の過程、作業内容、作業の段階づけを理解する。 ③ 作業目的・効果を身体的・感覚的・認知・心理的・精神面で理解し、活動分析ができる。			評価方法	期末試験 50% レポート 30% 作品 20% (100点換算で60点以上で合格)		
授業概要	① 具体的な作品の製作過程を体験し、理解を深める。(作業制作活動) ② 活動分析を行う。(レポート作成、発表)						
教科書等	作業－その治療的応用	使用器材	手工芸品等				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	作業活動とは(活動の特性、治療的活用) 作業活動実践: タイルモザイク ①						
第1週	作業活動実践: タイルモザイク ②						
第2週	作業工夫と段階づけ(活動分析) 作業活動実践: ちぎり絵 ①						
第2週	作業活動実践: ちぎり絵 ②						
第3週	作業活動実践: 紙工芸(きり絵、ペーパーフラワー、折り紙) ①						
第3週	作業活動実践: 紙工芸(きり絵、ペーパーフラワー、折り紙) ②						
第4週	作業活動実践 ステンシル、絵画(デッサン、塗り絵、フィンガーペインティング) ①						
第4週	作業活動実践 ステンシル、絵画(デッサン、塗り絵、フィンガーペインティング) ②						
第5週	作業活動実践: 七宝 ①						
第5週	作業活動実践: 七宝 ②						
第6週	作業活動実践: 革細工 ①						
第6週	作業活動実践: 革細工 ②						
第7週	作業活動実践: 籐細工 ①						
第7週	作業活動実践: 籐細工 ②						
第8週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 レポートは、提出期限を守ること。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	基礎作業療法学	授業時期	後期	授業時数	60
実務経歴	病院で陶芸、織物、手工芸等を指導	担当	林 あゆみ	授業方法	演習	単位数	4
到達目標	作業の治療適応を理解し、作業種目を決定して取り組むことができる。			評価方法			
授業概要	① 障害体験を交え、作業製作活動を実施する。 ② 活動分析を行う。(レポート作成、発表等)			期末試験 50% レポート 30% 作品 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎作業療法	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第9週	作業内容、作業工程の説明、計画(刺し子)・作業活動						
第9週	作業活動(刺し子)						
第10週	作業内容、作業工程の説明、計画(マクラメ)・作業活動						
第10週	作業活動(マクラメ)						
第11週	作業内容、作業工程の説明、計画(銅板細工)・作業活動						
第11週	作業活動(銅板細工)						
第12週	作業内容、作業工程の説明、計画(藤細工)・作業活動						
第12週	作業活動(藤細工)						
第13週	作業内容、作業工程の説明、計画(デコパージュ)・作業活動						
第13週	作業活動(デコパージュ)						
第14週	作業内容、作業工程の説明、計画(陶芸)・作業活動						
第14週	作業活動(陶芸)						
第15週	作業内容、作業工程の説明、計画(機織り)・作業活動						
第15週	作業活動(機織り)						
第16週	まとめ						
授業外 学習指示等	障害者作品展の見学						